

1. 現行学習指導要領の成果と課題

- よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成に極めて重要な役割を果たしてきたこと。
- 道徳的実践の重要な学習の場であること。
- 集団への所属感、連帯感を育み、ひいてはそれが学級文化、学校文化の醸成へとつながっていること。
- 目標が規定されたものの、それぞれの内容や指導（活動）のプロセスについて構造的な整理がされていないこと。
- 教育課程全体の中における特別活動の役割、機能という視点を明らかにすること。
- 学級活動の内容項目（17 項目）が多く、時数の確保が難しいこと。

2. 特別活動において育成すべき資質・能力

(1) 特別活動の特質に応じ育まれる「見方・考え方」

① 特別活動の特質

特別活動とは、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。その活動の範囲は、学年・学校段階が上がるにつれて広がりを持っていき、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力は生かされていくことになる。

② 特別活動における「見方・考え方」

集団や社会の形成者という視点から問題を見出し、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現の視点からその問題を解決するために考えることである。

(2) 資質・能力を育む視点

① これまでの目標を整理し、指導するうえで重要な視点として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つに整理した。

- ・ **人間関係形成** 集団の中で、よりよい人間関係を自主的、実践的に形成する力。
- ・ **社会参画** よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画する力及び諸問題を解決しようとする力。
- ・ **自己実現** 集団の中で、自己の生活の課題を発見し、よりよく改善する力や自己の管理を深め、自己のよさや可能性を生かす力。自己の在り方、生き方を考え設計する力。

(3) 小学校、中学校、高等学校を通じて育成すべき資質・能力

特別活動において育成すべき資質・能力について（上記の3つの視点を手掛かりとして整理）

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
中学校	○多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○様々な集団活動を実	○所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合	○自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生

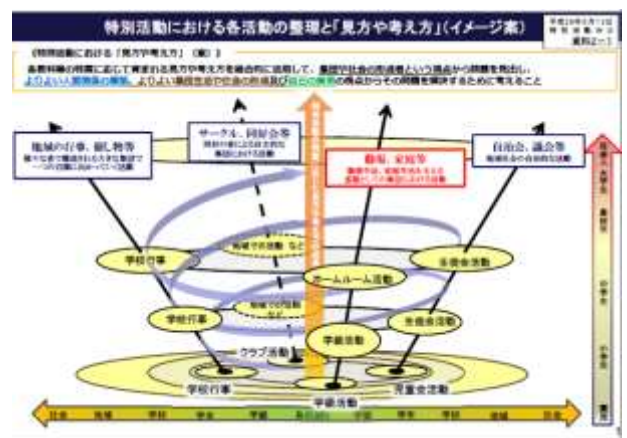
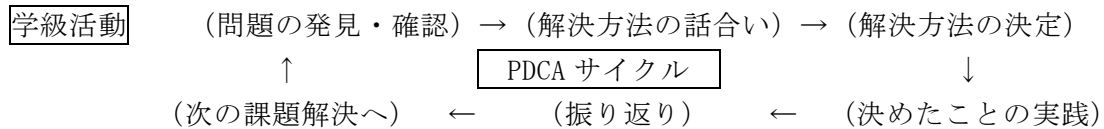


図 1 特別活動における「見方・考え方」

中学校 特活

	践する上で必要となること の理解や技能。	意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。	活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。
--	-------------------------	--	--

(4) 資質・能力を育む学習過程の在り方



- ・ 特別活動において育成すべき資質・能力は、実践も含めた全体の学習過程の中で育まれるものである。
- ・ 学校教育全体を見渡して、教師が意図的、計画的に指導を行うことが大変重要である。

3. 特別活動の目標

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
- (2) 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。
- (3) 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

4. 評価の在り方

(1) 特別活動の評価の観点

「よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能」

「集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現」

「主体的によりよい生活や人間関係を築こうとする態度」

- ・ 評価に当たっては、学級や生徒会等の中でどのような役割(役職)であったかや、どのような活動に取り組んだかという事実ではなく、集団の一員としてどのような成長が見られたかということや、各活動の結果だけでなく、そこに至る一連の過程の中でどのように取り組み、成長が見られたかということに着目することが重要である。

5. その他

- (1) 小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育にかかわる活動について、学びのプロセスを記述して振り返ることができるポートフォリオ(「キャリアパスポート」)的な教材の作成。
- (2) 指導資料「学級・学校文化を創る特別活動」の活用。

居場所づくりと絆づくり

「居場所は教員が作るもの。絆は生徒がつぐむもの。」

その絆づくりに特別活動は、なくてはならないものである。

